

# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	パークフロント香椎照葉EAST	階数	地上18F
建設地	福岡市東区香椎照葉4丁目26-32	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	324 人
地域区分	6地域	年間使用時間	7,776 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2019年3月21日
敷地面積	2,904 m <sup>2</sup>	作成者	牧 敦司
建築面積	956 m <sup>2</sup>	確認日	2019年3月30日
延床面積	12,709 m <sup>2</sup>	確認者	牧 敦司



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値: 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 69% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 54% (72 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+: 54% (72 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.8

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
独自の環境配慮指針を有するアイランドシティ地区において、環境配慮指針やデザインガイドラインに沿って計画を進めている。緑化率30%超の敷地内緑化、ガスコージェネレーションシステムの導入など、特に環境に配慮した計画としている。		アイランドシティ内での住宅供給や、TCAなどの住民参加の取り組みは、「アジア・グリーン健康住宅区モデル賞」や、日本都市計画学会の「九州まちづくり賞」など多数の景観や環境づくりに関する表彰を受けている。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
開口部は複層ガラス、内外壁は住宅性能評価の断熱性能等級4水準の外皮性能を保つ高水準の環境としている。また、内装材は全て4☆の健康素材を採用している。	福祉のまちづくり条例の誘導基準相当のバリアフリー性能で、お年寄りから子育て世代まで全ての人に優しい性能を保っている。また、耐震性、高耐久性能も高いレベルを設定し、モデルルームを建設する中で、計画内容を	計画にあたり、「生き物調査」を継続的に進め、生物多様性に配慮した外部環境づくりに心掛けている。特に「蝶や鳥達の為」の植栽や水場の確保を行った緑の外部環境としている。また、まちかど広場や通り抜け空間の
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
省エネルギー計画書の中で、各住戸が断熱等級4以上の性能を確保している事を確認している。また、LED照明やエネルギー消費量の少ない設備機器を導入し、省エネに努める一方で、太陽光発電と燃料電池(エネファーム)の全戸設置で創エネもおこなっている。	構造躯体への再生資材の導入、ノンフロン材、4☆の内装素材などの資源マテリアルの採用をおこなっている。	計画戸数の130%程度の駐車台数を自走式の駐車施設を設ける事で、緑化率30%空地率50%のゆとりある外部環境としている。また、南面が中央公園に面するという特性を活かし、十分な壁面後退と敷地内の緑の環境形成で、中央公園と一体となったゆとりある敷地外環境づくりに

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される